

事例⑦

知的障がいのある生徒が主体的に動ける授業づくりの工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- ② 主体的な学びを促す「分かって動ける」授業づくり

- 授業が教師の指示が中心となってしまう、生徒が自分から活動する場面を設定できない。
- 生徒が自分から、報告、連絡、相談するなど、主体的に学んでほしい。

◆例えば、「作業学習」で、こんなことからはじめてみましょう。

ファーストステップ！

- 作業学習「クラフトバンドのかご製作」 □ 中学校 □ 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・準備から後片付けまで、一連の流れを把握し、取り組むことができる。
- ・それぞれのタイミングで作業終了の報告を忘れずに行うことができる。
- ・工程表通りに作業を正しく進めることができる。

ファーストステップ②

・「見て、考え、取り組む」プロセスを分かりやすく示した写真付きの工程表を配付し、生徒がタブレットでいつでも見られるようにしましょう。



まわりあみカラー

- 必要な道具
- ・あみひも
- ・せんたくばさみ
- ・バンド



好きな色のカラーひもをえらぶ。

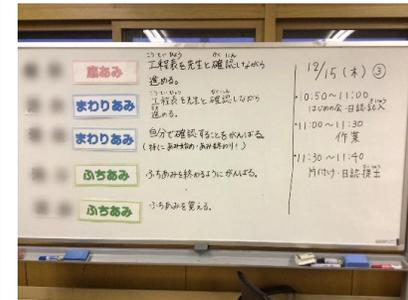


ここまでできたら報告する

	学習活動	手立て/留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標、個人目標を確認 ○ 作業分担の確認 ○ タイムテーブルを確認 ○ 作業日誌の記入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の流れをルーティン化することで見通しをもって学習に取り組めるようにする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業開始 ・必要な道具、材料を準備してから作業に取りかかる。 ・自分で工程表を見て作業を進める。 ・分からないことがあれば質問する。 ・工程表に示されたタイミングで自分から作業の終了を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々のタブレット端末に工程表を表示させ、視覚支援の補助的手段として活用する。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業日誌の記入 ○ 反省 	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレット端末を活用した振り返りの時間を確保をする。

ファーストステップ①

・前時の学習を振り返り、本時の目標とのつながりを確認しましょう。



ファーストステップ③

- ・個別に学習を振り返り、本時の成果は賞賛し、課題は生徒と一緒に考え、次時への目標となるよう励ましましょう。
- ・生徒が自分とじっくりと向き合う時間をつくりましょう。

工程表の例